

「3R活動」の推進

ゴミは「無用のもの」と広辞苑で定義されていますが、ここで少し考えて見ましょう。これら

「無用なもの」となってしまったものの中には、再利用・再生利用すれば、資源へと大きく変化するものがあります。

そこでゴミとなる前に、まずゴミを減らしたり、資源として生き返らせたりする「3R活動」について、簡単に紹介しましょう。

R educe (減量)

ゴミとなるものを減らす

「必要ないものは買わない」というように、もの自体を「減らす」ことです。現代は、まだ使えるのにすぐ、新製品に買い換えたりすることなどで、満足感を得る時代とも言われています。

このような時代で「リデュース(減量)」の実践は、難しいことかもしれませんが、少しの我慢でできる取り組みの一つです。

R euse (再利用)

地球に優しい取り組み

いらなくなったものを捨てるのではなく、繰り返し使えるものを選び、同じものをつかうことなどを「リユース(再利用)」と言います。例えば、シャンプーの容器などは、中身を詰め替えれば繰り返し使用できますし、ビールやジュースなどのビンなども再利用の対象となります。例えば、フリーマーケットなど

R ecycle (再生利用)

正しい分別が必要

一般的に有名なのが、牛乳パックや新聞紙、ペットボトルなどを再生利用するリサイクル(再生利用)です。例えば、古紙1トンを集めると、立木約20本を救うこととなります。

しかし、これらはしっかりと分類されていないと、リサイクルができませんので、正しい分別を心がけましょう。

「廃品回収は、一人ではできない。これからも、多くの方の協力を期待しています。」



グレインヒルズの子ども会
会長 平山 隆司さん

リサイクルのモデル地区を目指して

平成15年頃から始めた子ども会の廃品回収。最初は「周りの皆さんに協力してもらえるのだろうか。天気は大丈夫だろうか」と、不安がいっぱいのスタートでした。回収日当日、恐る恐る家々を回ると、玄関に山積みされた新聞紙を見つけて、とても嬉しかったことを覚えています。

廃品回収をする上で必要なのが、まさに地域力。このような活動は、一人で頑張ることができるものではありません。みんなの協力があってこそできる活動だと思います。また、地域力はそのまま地域教育へとつながります。当初、グレインヒルズは、新興住宅のうえ、町内行事もないという状態での出発でしたが、この廃品回収が、世代を越えた交流場所になっただけでなく、子どもたちへの地域教育となる土台にもなったことは、何よりも大きな収穫でした。

回を重ねるごとに、廃品回収の量は増えてはいますが、このグレインヒルズが廃品回収のモデル地区になることが、現在の目標です。



段ボール



雑誌



ビールビン



新聞

再チェック!!
リサイクルできる主なもの